

平成28年度学校関係者評価書

○番号は、重点項目

宮崎市立生目中学校

教育目標	重点目標	番号	ゴールイメージ	自己評価		自己評価コメント	学校関係者評価	学校関係者評価コメント
				教師	生徒			
「自ら考え、正しく判断し、実践できる生徒の育成」	目指すものに向かい、進んで学習する生徒の育成	①	意欲的・主体的に取り組める授業	教師	2.9	生徒は1分前着席・黙想等、学習委員会を中心に取り組んでいる。学級差はあるものの取組は良くなってきており、教師の評価も昨年よりポイントを上げた。ただ、1分前着席や忘れ物をしない指導等、小さいことを見逃さず、全職員で取り組む姿勢がなによりも大切である。保護者の評価が低いのは、家庭での学習の様子が親の納得のいくものではない（宅習の量や質といった内容が不十分）ということだろう。	3.2	○全職員で小さい事を見逃さない取組は高く評価する。○生徒と教師・保護者の評価の差が大きいことが気になる。意欲的・主体的に取り組める授業にするために、色々努力されていると思うが、もう一度本質に戻って考えることも必要かと思う。本来の学力を向上させるのに、宅習が必要かも考え直す必要があると思う。○授業参観して教師と生徒間には信頼関係があると感じた。一方的に教えるのではなく、生徒にしっかり考えさせ、ヒントを与えて、発表・発言を促す授業は良かった。○多くの挙手、発表、笑顔も見受けられるなど、概ね生徒たちの授業への主体的な参加ができています。関心・興味がわくような授業の探究を更にお願したい。また、先生方一人一人に指導方法に差が出ないように徹底を。また、生徒の自信につながるような声かけを。○先生方の取り組みが実を結びかけている。ただ、これでいいというラインはないので今後も気を抜かず指導をお願いしたい。○学習態度が大変よく、集中している。はっきりした声で発表する生徒が多い。○色々な取り組みで昨年よりポイントを上げている。更に学校全体で目指す姿を目指してほしい。
				生徒	3.7			
				保護者	2.7			
		2	読書活動の充実・推進	教師	2.1	今年も他に比べて、評価が低い。学校での読書は比較的良好に思われるが、読書が日常に定着しているということではない。月に1度1週間、「読書週間」を設け、学級文庫も計画的に設置できた。学級文庫の本を精選し、内容をテーマごとに設定することで、幅広い分野の本を提供できた。また、生目中校区の先生方（生目小や小松台小も含む）から、「おすすめの本」を紹介してもらい、図書室にコーナーを設置した。	2.8	○学校側の読書に関する環境づくりは十分と思えるが、生徒の読書が日常的に定着するという意識付けをもってほしい。○読書は人間形成の基本である。評価がとても低いので、高めるようお願いしたい。給食時間などに生徒・先生の人生を変えた一冊を放送で流してみるのもよいかと思う。○読書は個人差があると思う。今まで通り図書館、学級文庫を整えて欲しい。自分たちが読んだ本を紹介しあうのも読書に関心をもたせることにはなるのではと思う。○図書室の環境、レイアウト、掲示物と工夫されており生徒は恵まれている。家庭でも親が読書する習慣を取り入れたい。子どもと本のことをきっかけに親より会話が作れる。学校から働きかけても良いと思う。○今はスマホとかの利用で、自分で文字を書く事が少ないと思うので、新聞などを読み自分の感じた事を文章にする事も良いのではないかと。読解力の向上にもつながると思う。○多忙な生活の中での読書はなかなか難しいのだから一歩一歩全身を目指しているところがすばらしい。
				生徒	2.3			
				保護者	2.3			
	③	基本的な生活習慣(あいさつや返事等)の定着	教師	2.4	生徒会役員が毎朝、正門に立ってあいさつ運動をしているが、自ら進んであいさつができない生徒がまだまだ見られる。教師に対しても声が小さい生徒もいるが、それを待つのではなく、こちらから積極的に声をかけているところである。校内でもそのような状況なので、校外ではなおさらではないか。ただ、保護者の評価は概ね良い。	3.2	○学校訪問した時など、生徒からよくあいさつされるので気持ち良い。○校内で生徒と顔をあわせてもなかなか「あいさつ」の声がでないと感じた。こちらから声かけすれば必ず帰ってくるので、声かけは必要だ。○あいさつは校内・校外も積極的にできている。ただ、知らない人に対しては消極的な部分も見受けられる。ねばり強く指導をお願いしたい。地域での指導が必要である。○あいさつをすることでその日が気持ちよく過ごせると思う。社会にでたらあいさつをする事が基本です。○以前に比べるとあいさつをしてくれる生徒が多くなりつつある。○社会生活をする上で、あいさつは基本であり非常に大切なものである。急にあいさつ励行といっても大変であるが、地道な指導をお願いしたい。	
			生徒	3.2				
			保護者	3.0				
	4	人権・生命尊重や望ましい人間関係の醸成と「いじめ0」の推進	教師	2.4	自分の悩み等を相談できる大人がいると答えた生徒が多いのは、大変良いことである。子どもの話を聞くよう日頃から心がけていると答えた保護者は9割を越えて（91%）いることは大変素晴らしい。ただ、相談できる大人がいないと答えた7%（昨年度は5%）を見逃すことなく、気をつけていきたい。	3.1	○教師と生徒の評価に差があるのが気になる。○自己評価コメントから思うことは、生徒には声かけをしてほしい。それが「話す、相談する」きっかけになると思われる。○集団生活において、いじめを無くすことは非常に困難であるという意識で生徒たちを観察してほしい。様々な講話や体験(認知症サポーター)を通して、弱者を思いやる心の教育はできている。○自分の子は自分で育てるという保護者の意識が良くなってきている。自己中心ではなく、周りとの協調性を考えた意識をもってほしい。少数の生徒の意見・行動・服装・言葉にも気を付けて変化を感じたら声をかけるなど、大変ですが目配り・気配りをしてほしい。○人権(他人の)を認めることこそ、いじめなどを起こさせないことなので、今後とも小さいことを見逃さないように続けて欲しい。	
			生徒	3.4				
			保護者	3.2				
⑤	健康・安全意識の高揚と危機回避能力の育成	教師	2.5	登下校時の自転車のマナーについては毎年問題に上がり、今年度も自転車による自損事故が発生した。交通教室を年2回実施し、注意を喚起しているところである。生徒や保護者の評価は高いが、教師の評価は低く、これは自転車のマナーだけでなく、業間の過ごし方など気になる様子も多く見られ、生徒の安全意識はまだまだ充分ではないと感じている教員は多い。また、その指導の必要性を強く感じている。	2.9	○生徒・保護者の評価は高く教師が低いのは、交通安全の意識が教師の方が高いため、ある意味正当な評価かもしれない。○下校時は楽しく、心のゆるみも出て、周囲が見えていないことがあるように思う。十分な指導をお願いしたい。○並進や田んぼへ転落、スピードの出すぎ、一時停止無視、たまに見聞きする。これには、家庭での安全教育が大事であると思われるが、学校側との連携が大事と思われる。○自転車通学生のマナーは良くなってきている。しかし、少数の生徒は斜め横断したり、曲がり角や見通しの悪いところでも確認することはなく、通行している。横断歩道のないところや見通しの悪い所では一旦停止し、安全を確認してから通行する余裕をもってほしいものである。自分の命は自分で守る、他人に迷惑をかける行動をしてほしい。○日ごろの様子、特に危ないと感じたことはほとんどないが、大事故につながるだけに大変心配される。○自転車の二人乗り、並進、スピードの出すぎ、お年寄り(歩行)のすぐ横を合図なしに後ろから通過するなど、身勝手な自転車の運転は危険なので、今後とも指導してもらいたい。		
		生徒	3.5					
		保護者	3.2					
⑥	地域・家庭や小学校と連携した教育の推進	教師	2.4	地域との連携は「ふれあいin小松台」に15名の生徒が、「生目地区ふれあい交流会」に6名、「生目地区の総合文化祭」では、8名が参加し受付等の手伝いをした。吹奏学部は地区の様々な行事で活躍したり、成人式では他の部活動も準備や片づけを行った。宮崎市の一斉清掃の日は、部活動の開始時間を遅らせる等の配慮を行った。部活動や習い事等もあり、数は多くないが今後も生徒へのアナウンスを続けていきたい。	3.0	○地域の行事に進んで参加することは、とてもよいことだと思われ、学校内でも参加生徒のことを様々な機会を使い広報してほしい。○中学生は部活動や習い事なども多く、その中で地域活動によく参加してもらっていると思う。今後も続けてほしい。○特に吹奏楽部は頑張っており地域の行事に参加してもらい、感謝の気持ちでいっぱいである。○今年は生目地区総合文化祭やふれあいin小松台で、例年よりも多くの生目中生が頑張っていた。小学生からも中学校が身近に感じられ、大変良いと思います。男子生徒の参加も増やすと良い。○少しずつではあるが地域の行事に参加する生徒が増えてきている。学校の取り組みがようやく地域との連携に目を向けていただいた結果だと思う。これからもお願いしたい。できれば職員の方にも忙しいと思うが参加をいただきたい。成人式においても学校、生徒の協力があるから地域で出来ると思う。感謝の気持ちでいっぱいである。○地域の行事等に参加し、地域の一人として自覚が育ってほしい。		
		生徒	2.8					
		保護者	2.7					
【総評】 《本年度の取り組みについて》		○外部(地域)から見ても、学校が安定していることが伺える。学校生活は勉強に限らず様々な活動にも教育目標やゴールイメージがあることや、自分とその周りの友人にも目を向け、お互いを尊重し合い、褒め合う、中学生生活になってほしいと願う。 ○学校はかなり落ち着いていると印象を受けている。但し、発達機能障害が増加しており、大人数教室では授業を受けられない生徒もいると聞くので細かな対応をお願いしたい。 ○元気な生目中生をたくさん見れた。全ての行事で生き生き活躍しており、頼もしい限りである。全ての取り組みが実を結んでいると感じられる。生徒たちがしっかりと前進していけるよう、今後もしっかり一人一人に対して声かけをしてほしい。 ○生徒の規範意識も高いと感じている。今後とも継続した指導方針で教育してほしい。						